

平成 29 年度「食と農のミライ」作文コンテスト
＜大学・専門学校生等の部＞
優秀賞

農業×〇〇で明るいミライ

ミライの農業を発展させるためには、農業に関心がある人を増やすことが重要だと考える。「農業」と聞くと、大抵「低収入・きつい・汚い」といったようなマイナスなイメージを思い浮かべる人が多いだろう。このマイナスイメージこそが就農者数の減少の要因になっていると私は考える。その為、就農者数を増加させる為には旅行などのプランに農作業体験を組み入れたり、食育と組み合わせたり「農業×〇〇」という活動を広げていき農業に対する世間のハードルを下げる。そして、まずは休日や長期休暇を利用して農作業をしたい人を増やし、場を提供することが重要だと考える。

かつての私も農業に関心のない一人であった。しかしながら、私は大学一年生の春休みに参加したあるツアーで農家さんを訪ね、収穫体験やその方とお話しをしていく中で農業の尊さや豊かさを知った。そして、囲炉裏を囲んで収穫した野菜や地元で獲れたジビエ肉や魚をごちそうになった時に、美味しさに感動した以上に温かい様な懐かしい様な何とも表現できない気持ちで胸がいっぱいになったことが農業に惹かれるキッカケになった。

それ以降インターシップやイベントで自ら積極的に農業に関わるようになり、地域ごとの食文化にも触れ「食育」をキーワードに地域と農業、また都会と田舎を上手く結ぶことができるのではないかと考えるようになった。また、毎日関わることはできないが、休日や長期休暇などに農作業の手伝いをしたいという人たちが多くいることを知った。

私の様に農業に全く興味がなかった人もキッカケさえあれば興味を持つようになる可能性があるのだが、そのキッカケとなるイベントや体験が少なく、あったとしても元々食や農業に興味がないと見つけにくいと感じた。興味のない人にどうやってアプローチするかは、多様であり、地域ごとの魅力を生かしたものもできると考える。

例えば、農業体験をメインにしない方法とメインにする方法。興味のない人にはメインにしない方法で提供する。具体的には上記に書いたように旅行プランの中に組み込むことなどが考えられる。地元の旅館やホテルと協力して食事のコースに「郷土料理コース」といったものをつくる。内容は実際に旅行者が現地に行って収穫をし、収穫したものを旅館やホテルが調理し提供する。見せ方は観光がメインで、そのコースを選択した人には収穫に行く間の観光スポットや知る人ぞ知る穴場スポットが書かれたマップを配布する。観光のついでに収穫に行く形をとり、旅行者のプランによっては一人の農家さんのだけではなく2、3品種の野菜をそれぞれの農家さんの元に収穫をしに行く。このように町または島をつかったクエストのようにする。また、このコースを利用してくれた旅行者に定期的に農家さんから収穫イベントなどのお便りを送ってもらう。一度行った農家さんの所のイベントであればハードルも下がり行きやすくなり、関わりが生まれると考える。

メインにする方法としては、小さなお子さんがいるお母さんをターゲットに食育イベントをする。チラシを小児科・産婦人科・市役所・保育・幼稚園などお母さんたちの目にとまりやすい場所に置かせてもらう。イベント内容はお子さんと一緒に収穫体験をし、収穫したものを使って、農家さんや地元のお母さんの料理教室を受ける。または、地域によっては小学校で田植え体験をすることがある。そこで田植え体験だけでなく、収穫体験をし、料理教室をする。その後も小学校に収穫イベントなどのお知らせを定期的に配布してもらう。農作業体験で興味を持った子が「また行きたい」となったら、家族でイベントに参加する率も高くなる。

このように組み合わせはいくつもつくることができる。観光と組み合わせれば地域経済にも貢献でき、食育では農業だけでなく、その他の一次産業や調味料など地元のお店と協力するとそれぞれは僅かかもしれないが地域経済にも貢献でき、生産者と消費者の交流にも繋がる。消費者は食材の裏側を知ることができ、生産者は消費者がどのような野菜・商品を望んでいるのかを知ることができる。

実際には難しいことも多いかもしれないが、「農業×〇〇」をまずは発展させ農業に関心を持つ人が増え、マイナスイメージを少しずつ改善することで農業の未来が明るくなることを願い、これからも農業に関わっていきたいと思う。